

小規模校では ダメですか？

学校は小さくなくてはならない (WHO)

開治小学校が複式になる可能性があるといわれておりますが、福原分校は、ぎりぎりまで存続しました。

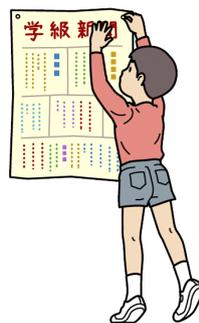
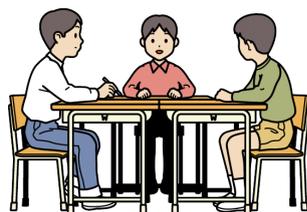
複式学級は、年上の子が年下の子を気遣い年下の子は年上を見習い、自然に意学び合います。年上は自分たちを見てまねをする年下を見て自己の行いを振り返ります。少人数教育ですから学習のわからないこともキチンとフォローされます。

WHO (世界保健機構) は「生徒1

00人を上回らない規模が望ましい。」としています。

八開中学校は令和10年には全校生徒89人と市では見込んでいます。

愛知県下には、全校生徒数十数人から100名程度の中学校が豊田市で5校、名古屋市、新城市、豊橋市で2校ずつ、三河山間部は村ごとに1校ずつなど20校近くあります。特認制度を利用したり、市独自で教員を確保したりして工夫しています。



現状で丁度いい

愛西市の小中学校は、何年も存続できているのですから、位置や数は、ちょうどいいではありませんか。老朽校舎が多いので、古い学校から改善していくことが今、必要なことです。



「愛西市の中学校は2校に」

統廃合前提の議論は 見直しを

拙速な進め方は 止めましょう！

愛西市立小中学校適正規模等
並びに老朽化対策検討協議会



八開中を佐織西中に
立田中を佐屋中に

「基本計画 (案)」は、

- ①「佐屋中学校と立田中学校を統合し、佐屋中学校に配置 (令和8年までが望ましい)」
- ②「八開中学校と佐織西中学校を統合し、佐織西中学校に配置 (準備ができ次第速やかに)」を提言しました。

- ③「永和中学校は、過小規模校になるまでに、佐屋・立田統合中学校へ追統合 (現状令和10年までに検討開始見込み)」
- ④「佐織中学校と八開・佐織西統合中学校のどちらかが過小規模校となるまでに統合」と決めました。



発行: 2022年11月
お問い合わせ先

愛西市未来をひらく会 (革新懇)

代表者 濱崎裕功
☎ 0567-26-4854

子どもの学ぶ権利は 大人が保証！

立田・八開小学校、最終日に統合案を提案

第5回の検討協議会に、小学校の統合を検討する提案があり、委員からは、「十分検討もできないこんな時期に突然出すのはおかしい」と批判が出ました。

「基本計画（案）」には、「開治小学校は、現状、令和7年度までに具体的方策を決定。立田北部小学校・立田南小学校・八輪小学校は、速やかに検

討開始」とあり、統廃合を進めます。

教育委員会は、今後、この「基本計画（案）」を地区協議会で協議し、今年度中に決定するとしています。

地区協議会は、佐屋・立田・八開・佐織の4地区に作られ、委員は、各地区11名、6回の協議を予定しています。

まずは、小さな学校をしっかりと支え
将来に向け人口を増やす施策を！

「生徒・児童が減ればそれだけ統廃合をすすめ、中学校は2校にする。通学圏6キロメートルまでは自転車通学、それ以遠は、通学方法を検討する」という提案は、生徒を無視した全くひどい提案です。

生徒が減れば、学校統廃合という考えでは、愛西市の将来はありません。まずは小さな学校をしっかりと支え、

将来に向け人口を増やす施策を進めることが必要ではないでしょうか。

愛西市と愛西市教育委員会には、学校統廃合前提の議論は見直すことを求めます。特に検討協議会2カ月6回、地区協議会も2ヶ月6回しか行わないのは、問題です。このような進め方は中止し、市民や地域の声をしっかりと聞くべきです。

この計画知っていますか？

学校の存続を11名にまかせて良いのでしょうか！

地区検討協議会へ丸投げ

「統合」ありきで、議論することなく

愛西市の中学校が2校に、立田中と八開中が無くなります。10月20日の地区検討協議会では、論議することなく、統合ありきで、通学方法や通学時間、安全対策、学区再編を考えること

になりました。

地区協議会の委員は、4地区各11名ほど。元校長などの有識者や総代、保護者代表、学校評議員、現校長などで構成されています。

地元の地域や保護者に相談なく

地域にとって重要な学校のあり方が論議なしで進められているのです。事前に住民アンケートや各地で話し合う機会もありません。いきなり統合案が新聞で発表されました。地元地域や保護者に相談なく決める学校統合に反対します。



子どもの数が減るからと言って、学校まで減らしていいのでしょうか、少子化は全国の問題です。多くの自治体は、独自の教育方針のもと小規模校を

存続させています。文科省は、小規模特認校制度で小規模校は存続できると提言しています。子どもの安心、安全のために学校の統廃合に反対です。